

# 2019年度 看護部目標

## 1. 受療者中心の医療、看護を実践する。

- 1) 受療者が安心して良質な医療を受けられるように、尊厳を重視したケアを実践する。
- 2) 受療者が理解、判断できるよう十分に情報提供と丁寧な説明を心掛け、自己決定権を尊重する。
- 3) 診療、ケアに必要な情報を共有し、患者—看護者のパートナーシップを図る。
- 4) 診療、ケアに関する課題の解決に向け、検討・勉強会を継続的に開催する。
- 5) 受療者の要望、意見、感想を受け止め、速やかにサービスの質の向上、改善を図る。
- 6) 各病棟の機能に応じて療養環境を整備し、適切な医療が受けられるよう配慮する。

## 2. チーム医療における診療・ケアを実践する。

- 1) 多職種によるチームで、受療者の治療期、病態に応じたケアリングを実践する。
- 2) 受療者、その家族に患者会、断酒会、脱依存症の会、家族会などを紹介し、入院時から退院後も精神的健康が維持できるようにサポートする。
- 3) 全職員、法令を遵守し、行動制限の回避、最小化、解除に向け取り組む。
- 4) 受療者、家族からの医療相談に対応し、円滑な入院、早期退院に向け、チームで取り組む。
- 5) 入院中の処遇に適切に対応し、笑顔で接遇あるサービスを提供する。
- 6) 退院支援委員会を定期的で開催し、受療者に社会資源の具体的な活用方法を知らせ、自立支援に向けて取り組む。

## 3. 医療安全の管理意識をもち、事故防止に努める

- 1) 5S活動を習慣化し、安心できる治療環境を整える。
- 2) 常時、インシデント(ヒヤリ・ハット)レポートを携帯し、年間、病床数の約2倍以上の提出件数を目指す。
- 3) 各病棟、外来でKYT(危険予知トレーニング)を実施し、声に出して安全を確認する。
- 4) インシデント、アクシデントの事例を分析し、更にPDCAサイクルで事故防止対策を検討し、安全な作業を実施する。
- 5) 医療安全情報の提供と事故原因、分析結果、事故防止対策を各部署で周知し事故を防ぐ。

## 4. 働きやすい組織風土をつくる

- 1) 新人職員は社会人として常識のある行動や接遇を学び、経年者と相互に、成長することができる。
- 2) チーム支援型組織としての教育体制をとり、専門的知識、技術が習得できるように、当院の教育能力開発プログラムに沿って支援する。
- 3) 組織やチームの一員として、自己の役割や研究テーマをみつけ、積極的に取り組む。
- 4) 定期的に面談を実施し、目標を共有し、人材育成に努める。
- 5) 職場のコミュニケーションを活性化し、働きやすい職場環境をつくる。
- 6) ワーク・ライフ・バランスを正しく理解し、働き方改革に自主的に取り組む。